

2014年度文学部卒業論文題目

(※2015年度卒業論文一覧は、『人文研究』45号に掲載している。そのため、今号は2014年度卒業論文を掲載するものである。)

【行動科学科】

〈哲学講座〉

- 大久保真衣 「騙し」とその魅力
佐久間優介 ロボットの生命権に関する考察—浦沢直樹の『PLUTO』を手引きにして—
- 柴田 雅子 当事者研究における「研究」の性質を探る
高橋 光 純粹持続と物語の複層性—ベルクソンの存在論—
内藤 梓 動物の閉じ込めと動物園に関する考察
福原 直生 20世紀初頭の中国における科学的史学の形成—顧頡剛を通して—
- 藤岡 千明 夢を見るときはどういうことか
松村 純輝 過度な延命治療をどう考え、どう対処するのか
三代川隼人 他人に快を与えることにおける自らの優先性
吉江 一樹 欲求の充足で得られる善と死におけるその剥奪

〈認知情報科学講座〉

- 伊藤久美子 手話会話における重複発話の分析
岩谷 理沙 視覚探索を用いた形探索への色の影響
遠藤 一樹 外的資源としての道具が思考に及ぼす影響についての検討
長田 怜子 衝動買いしやすい個人の属性の検討
小林 瑛子 ランドマークと背景グラデーションを用いた複数手がかりによる空間認識の検討
- 佐野みなみ ハトにおける幾何学的図形の弁別の検討
徐 颯哲 視線追跡を用いた対人印象と相貌特徴の関系の検討

- 高木 翼 知覚群化に及ぼす空間周波数と傾きの影響
奈良由美子 RSVP課題を用いたハトの高速画像処理におけるISIの影響
- 秦野 智博 利用者の求める情報に合致する作品推薦システムの研究：
作品推薦文作成プログラムによる構築
- 林 萌子 会話ロボットを用いた対話とその対話効果
林 侑輝 ゴール指向性の行動を表す記述モデルの作成に関する研究：
人間の情報処理に着目して
- 森川 明子 認知的負荷によるフィルターの使用への影響
守川 静香 程度のちがうオノマトペとジェスチャー

〈心理学講座〉

- 泉 ゆりか 表情認知における視線の効果とパーソナリティとの関連性
について—Eysenckの外向性と神経症傾向からの検討—
- 垣内 浩貴 連合学習条件が情報源記憶の再生に及ぼす効果
加藤 萌里 縞模様の諸条件が立体物の横幅の見えに及ぼす効果の検討
株田 佳奈 先行画像の空間的広がりか後続画像における境界拡張に及
ぼす効果
- 小林 捺穂 表情認知に及ぼすパーソナリティ要因—Eysenckの外向性
と神経症傾向による検討—
- 三本木千尋 漢字の語彙と音韻の処理に先行刺激が誘導する注意が及ぼ
す影響
- 島田 佳奈 フレーミングを伴う不確実事態下での意思決定に及ぼす表
情の効果
- 陣崎 りか 楽曲の主観的テンポに音数と注意が与える影響
鈴木 博子 利き手を指標とした認知能力の個人差について
高野 勇典 複数要素の平均的明るさ判断に影響を及ぼす要因の検討
高橋 千晶 ターゲットと妨害刺激との特徴の共有が注意の瞬きに与え
る影響
- 西川 友理 色の同化に影響を与える空間特性の検討
原 匠太郎 社会的ジレンマ状況における集団内の協力行動

細田 洋志 文章理解に及ぼす空間移動文処理の効果
八木 綾子 有彩色範囲での記憶色効果の検討
矢瀧 翠 蛇の回転錯視に随意性眼球運動が及ぼす効果

〈社会学講座〉

阿藤早紀子 親密圏における感情の表出管理—千葉大生10人へのインタビューを通して—
五十嵐貴光 ソーシャルメディアの功罪—SNSから考察するこれからのウェブ社会
上脇 未緒 現代社会におけるオタク観
宇田将太郎 構築されるサウンドスケープ—音と共同体—
内山起代親 日本のヒップホップにおける「リアル」について
大木 彩乃 千葉大生における「演技」の実際
大谷 友理 うつ病患者から見る回復過程における社会
風林くるみ きょうだいの存在が与える影響
菊地 祥平 ポストモダンにおける若者の働きすぎ—フリーター・ブラック企業との関連—
金 星虎 日韓ナショナリズムの現状
小平 理恵 アイデンティティに悩む若者たち—サブカル女子を例にとりて—
三枝 聖月 「太陽のマルシェ」の分析から見る—「現代社会の結節機関」とその定義—
坂田 知加 翼を授けられし若者たち—エナジードリンク爆発的ヒットの社会的背景を探る—
添田 雄樹 地域と記憶—地域の博物館の記憶形成について—
高橋 大樹 アニメ聖地巡礼から見るコンテンツツーリズムの今と未来
高橋みな美 過疎化地域における地域活性化—秋田県大仙市における地域活性化の取組みを事例に—
堂田 恵耶 「人気」から見るプロ野球
中里 早希 流行現象の今—雑誌から見る消費の記号化—
中澤 美幸 人身事故の社会学

- 永田百合香 岩手県陸前高田市におけるまちおこし—越戸浩貴さんの活動から—
- 西浦 礼文 ネット全盛時代におけるテレビの信頼性
- 横本 雄太 2ちゃんねるにおける「煽り」というコミュニケーションについて
- 渡辺 愛 マンガの理解の可能性におけるコマ割の影響

〈文化人類学講座〉

- 岡根亜希子 「キャリア支援企画」が気付かせる大学4年間の可能性—実践共同体での大学生に必要なことと彼らが得るもの—
- 加藤 良生 オンラインゲームにおけるコミュニティへの参加と成員のふるまい—「マビノギ」に参加できなかった加藤と集団に参加できた人々—
- 中島 菜月 仏師に生きる—仏師における「わざ」の習得、伝承の過程—
- 松井 貴海 落ち着きを取り戻すこと—知的障害者の日常に潜む「自立」とは
- 森 友紀 趣味集団における身体技法の習得—ツーリングの「手信号」を事例として—
- 湯池 祥悟 「放置自転車」を生み出すのは何か—都市論と「もの」論の出会いとところ—

【史学科】

- 赤塚さやか スーフイズムにおける女性の立場と役割—ラービア・アルアダウィーヤを中心に—
- 浅田 蛍 メーラレン地域の交易都市と「改宗」—ピルカとシグトゥーナの比較から—
- 浅野 春佳 アニメ『少女革命ウテナ』にみる現代日本における性別越境の可能性
- 飯島 直松 村雨橋闘争からみる市民の自発的意識の芽生え
- 磯 美咲 疱瘡見舞い、疱瘡祝いの記録に見られる贈答の変遷—近世後期下野国都賀郡助谷村桑川家の場合—

- 市川 超大 近世江戸の番人制度
伊藤 菜々 アメリカ合衆国における原爆投下認識—中等教育用歴史教科書の分析—
- 字佐美孝文 「朝鮮的終末観」の比較的考察—崔濟愚、李龍道、文鮮明を中心に—
- 大関 崇真 駄馬と呼ばれた日本の馬—日本における「馬」からみた文明開化—
- 小田 翔太 ルメリ地方におけるティマル制の実情—ボスニアにおけるオジャクルク=ティマルを事例として—
- 小田 拓也 教育における戦争責任問題—1980年代以降の歴史教科書の記述から—
- 笠原 誠幸 元明・元正天皇の即位と治世の意義—母娘二代統治と皇位継承の正当性を通して—
- 笠松 幸 幕末の治安維持—佐倉藩領武蔵国横見郡を例として—
北 沙織 硬玉製大珠の分類試案と分布に関する—考察—埼玉・茨城・栃木県を中心に—
- 柴田 優 中世初期における流通と地域社会—裁判記録を中心に—
末益 智広 戦争児童文学に描かれた中国・朝鮮
鈴木 顕定 ファーティマ朝エジプト東遷の現実政治的分析
染野雄太郎 太平洋戦争末期における松代大本営の位置づけについて—本土決戦、国体護持における視点から—
- 高梨 和矢 「異端」から見る陸軍幼年学校の教育—大杉栄と松下芳男を中心に—
- 武山 悠 オーストリアザルツブルク州におけるナチ党の形成とその過程
- 手嶋 秀吾 蕨手刀に関する分析と考察—型式分類試案と編年試案—
堀田 匠悦 J. M. W. ターナー芸術再考—「固有有色」の観点から—
牧野 文 1549年イングランドのデヴォン・コーンウォールにおける反乱の本質—ヘルストンの靴職人ギルドの規約に見る—
- 丸山 涼太 近代日本人から見た中国秘密結社のイメージとその実態
三村 夏生 縄文時代中期後葉の土偶についての—考察—関東地方西南

- 部を中心に—
- 宮坂 友子 宮廷楽士—国王付きヴァイオリン奏者から見る王権と楽師組合と音楽家の関係に関する考察—
- 宮下 信 パレスチナサッカー—パレスチナ代表に見るサッカーの役割—
- 村上 大和 英領インドにおけるヒラーファト運動（1919～1924）—収束期のムスリムを中心に—
- 村田 雄希 浦島伝説に見る本地物—『浦島明神縁起絵巻』の分析を中心として—
- 山口 杏里 90年代の少女たちが求めるもの—『美少女戦士セーラームーン』より—
- 依田あづみ 中世後期の高野山蓮華定院と信濃小県・佐久郡の国人衆との関わり
- 渡邊 健亮 福島県域における古墳文化の流入—古墳の分布から見る古墳時代の交流ルート—

【日本文化学科】

- 赤石木乃香 現代日本語における親族名称について—言及的用法を中心に—
- 秋保 紗英 御伽草子にみる異類婚姻譚の考察
- 天久 由理 戦後国語教科書における夏目漱石『野分』
- 荒川 祐城 千葉県銚子市における漁村の伝統芸能・工芸—大漁祝いに纏わる歌と染色品から分かること—
- 有泉 茉佑 漁業の地域的価値—銚子市外川町のキンメダイ漁を探る—
- 伊波美の里 英訳『方丈記』の比較—「心情語」を中心に—
- 今井 渉 幸村誠『プラネテス』論
- 岩間 周平 短縮語の使用に関するスタイル差について
- 衛藤香菜美 日本語学習者の方言意識の分析—大分方言地域の学習者を対象に—
- 岡本 亜紗 『万葉集』受容の歴史—古代中世を中心に—
- 川上希里子 万葉集の恋歌にみる男性の恋愛観

- 川島 拓馬 文末名詞文の分析的研宧—名詞述語文における位置づけを視座に—
- 菊池 真歩 トボスとしての隅田川
- 齋藤 優一 『新著聞集』攷—「不破万作恋情」の不破万作—
- 佐々木裕己 銚子電鉄をめぐる観光活動
- 清水 陽介 明治少年文学の創出—巖谷小波『こがね丸』を考へる—
- 東海林 麗 アイヌの山岳信仰
- 末永 結子 現代日本語における「ほど(に)」について
- 鈴木 紗樹 平安貴族の婚姻儀礼考—三日夜餅を中心に—
- 鈴木 智江 現代日本語における男性語と女性語
- 高橋亜夕海 川端康成『伊豆の踊子』論
- 高橋麻依子 千葉県袖ヶ浦市玉野のツキアイ—現在の生活に残る住民のつながり—
- 田中 佑来 愛知県半田方言の記述的研宧—否定表現を中心に—
- 千葉 春佳 黄表紙私論—『心学早染草』の背景と影響—
- 車 海倫 韓国人日本語学習者の日本語習得と社会的ストラテジー—ネットワークによる自然習得は韓国人学習者の言語能力や言語管理意識にどのような影響を与えるのか—
- 永岡 由貴 動物を供養することについての—考察—鯨墓を中心に—
- 備谷 朋世 千葉におけるすし文化
- 廣田 尚士 神武天皇伝承の考察
- 増田 恵 文学における少女性—太宰治『女生徒』を中心に—
- 町田 美佳 秩父方言における文末表現について
- 松尾 涼花 現代児童文学と大人たち
- 水越 栞 国語教科書における夏目漱石『こゝろ』
- 宮内 敬太 中国人日本語学習者のノダ文習得—習得過程の調査、及び現行の日本語教育への提言—
- 武藤 恭子 まどみちお論—戦時中を中心に—
- 村上 仁美 芥川龍之介『蜘蛛の糸』研宧
- 村川 菜摘 銚子市外川町における漁村の信仰—稲荷信仰を中心に—
- 森谷 行海 織田作之助『青春の逆説』論

- 山本 遥香 広告コピーにおけるレトリックの使用についての研究
横田 汐理 雷とその表象

【国際言語文化学科】

- 相澤 実沙 英語の接触場面における日本人の謝罪行為
浅井 初実 罵倒語の日独文化比較—漫画の翻訳からみて—
井浦 修太 日本のアニメーションの発展と受容
石黒 莉紗 オノレ・ド・バルザック『グランド・ブルテージュ奇譚』
における言葉の力
市場 涼介 マングの独訳における翻訳の工夫について
伊藤 静夏 *Gone with the Wind*: Scarlet O'Hara as a New Woman
伊藤 正哉 ラテンアメリカにおける民主主義の定着とその維持に関する考察
今道安里紗 ミヒヤエル・エンデ『モモ』における「時間」の問題
上野 多恵 O.プロイスラー『クラバート』の独自性
梅沢 香菜 英語での第三者言語接触場面における参加管理—日本人学生と留学生の比較—
大川 美帆 E. T. A. ホフマンの作品における視覚と聴覚
大木 健太 人間の尊厳とは何か—スペイン映画『海を飛ぶ夢』から考える生命倫理
郭 比茜 A Study of *The Merchant of Venice*: Portia's Marriage
金子 沙緒 An Analysis of Gender and Race in *Show Boat*
樹下 幸苗 Exploitation of Women in American Mass Culture in the 1920s
具志堅彩香 ミュージカル『エリザベート』におけるエリザベート像とその受容
國田真記子 ミャンマーにおけるナツ精霊信仰と日本における道祖神信仰の比較
河野 俊介 バスク自治州とカタルーニャ自治州について—分離と独立の歴史
小須田 誠 The Internal Structure of Noun Phrases in English

- 小宮山恵理 映画『レ・ミゼラブル』におけるコゼットの描写
 阪井 洵子 漫画・小説における役割語の翻訳 —英訳・独訳を比較して—
- 佐久間琴子 ナチスドイツにおける「安楽死」について—優生学の観点から—
- 佐藤 綾香 Barack Obama's Portrayal of His Life and His Perception of Race: An Analysis of His Speeches and Autobiography
- 佐藤 麗 民族移動期から近代におけるドイツの食の変遷について
 佐藤 啓一 ドイツ語における動物表現とその文化史的背景
 鈴木 歩美 子どもの職業体験型テーマパーク「キッサニア」にみる学校外英語教育の可能性を考える
- 角 羽純 英語とドイツ語における善悪の概念を表す形容詞の棲み分け
- 関上 由夏 『三銃士』におけるヒーロ性とその効用について
 染谷 剛毅 実例に見る中高ドイツ語から現代ドイツ語に至る語義の変遷
- 高野 友梨 『危険な関係』における女性の描かれ方
 高橋 彩音 映画『サルバドールの朝』から読み取るサルバドールの理想と現実
- 高橋 省吾 ゴダール『気狂いピエロ』—殺害と自殺について—
 多田 大祐 バンド・デシネと日本のマンガの表現方法の比較
 伊達 惇子 人物の形姿がもたらす印象と効果—『オペラ座の怪人』をめぐって
- 土田 綾 『クレイマー、クレイマー』と『アメリカン・ビューティー』にみる家族像
- 徳本 諒也 ドイツの移民問題と社会統合
 中野有由美 共通言語接触場面における帰国子女の自己開示
 西川 恭平 Oscar Wilde: Conflicting Personality in *The Picture of Dorian Gray*
- 林 里美 『モンテ・クリスト伯』と『怪盗紳士リュパン』の主人公

像について

- Park, Eonha *Jane Eyre's* Conformity with Established Conventions
- 朴 ミンク 黒人文化とジャズ
- 疋田 眞 映画に見るココ・シャネル像と彼女が女性へ与えた影響
- 藤井沙奈香 ウラジーミル・レーベジェフの創作における多様性——ソ連の求める「新しい人間」と絵本に表れる子ども像——
- 札 千晴 Gender and Ideology in *Back to the Future* and *Forrest Gump*
- 本間 桜子 歴史教科書と新聞記事の分析から日韓関係を考える
- 本吉 一稀 Une analyse des caractéristiques dystopiques de Paris au XXe siècle de Jule Verne.